

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3092000037
法人名	医療法人 裕紫会
事業所名	グループホーム あがら花まる
訪問調査日	平成20年 12月 12日
評価確定日	平成21年 1月 13日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3092000037
法人名	医療法人 裕紫会
事業所名	グループホーム あがら花まる
所在地	和歌山県御坊市藤田藤井2118番地6 (電話) 0738 - 32 - 8588

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山県和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年1月13日

## 【情報提供票より】(平成20年11月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成18年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	12人, 非常勤 3人, 常勤換算 14.6人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	2,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	昼食代金に含む
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人裕紫会 中紀クリニック 吉田歯科クリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR道成寺駅から徒歩15分の場所に位置している。地域密着型複合施設の玄関に入って右手が認知症デイサービスと小規模多機能型居宅介護、左手が2ユニットのグループホームという内部構造で、建物の内装は木目を活かし暖かみを感じられる。入居者は他のサービスを訪問して地域の高齢者と交流することができ、職員間の連携も行き届いている。職員は笑顔を絶やさず静かな口調で話しかけ、入居者がその人らしい生活を送ることができるように、寄り添うケアが提供されている。地域との交流も活発で地域の文化祭では地元の住民がホーム専用のブースを用意してくれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員がそれぞれの仕事に合った項目を分担し、記載したものを管理者がまとめ、完成した物を再度職員が確認する形で行われた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は複合施設として他のサービスと合同で開催されている。会議の内容はホームからの地域密着型サービスの説明や理念の説明が主となっている。地域からも積極的に意見が出されており、自治会での祭りや文化祭等の行事、コミュニティーサロンへの参加等、地域との連携が図られている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱は設置しているが、家族からの意見等は直接管理者やケアリーダーに届くことが多い。出された意見はミーティングで取り上げ、改善できるよう取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くで月に2回開催される高齢者を対象としたコミュニティーサロンに入居者とともに参加している。地域で行われているペタンクにも参加して地域住民と交流しているが掃除は早朝なので入居者は参加できていない。地域の小学校とはホームの農園での芋掘りや、総合学習での車イス体験などで交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域でのその人らしい暮らしを支援する地域密着型複合施設としての理念に加えて、ホームとしても「気軽に、楽しく、笑いたい」という独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで理念の読み合わせをしている。職員は理念を具体的に記した「行動指針」と呼ばれるカードを常に携帯し、理念の実践に取り組んでいる。問題が発生した時なども常に職員は行動指針に照らし合わせ判断している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域で行われているペタンクなどに参加している。地区の祭りや文化祭にも参加しており、文化祭では地区の住民がホームのブースを作ってくれている。地域の小学校とも交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員がそれぞれの仕事に関係する項目を担当し記載して、管理者が全ての項目をまとめたものを職員が再び確認している。管理者も職員も自己評価や外部評価の意義をよく理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は複合型施設全体で開催している。行政、地域、家族の代表等を交え多彩なメンバーで開催されているが、本人の参加はなく、定期的には開催されていない。議題は報告に止まらず、活発な意見交換が行われている。		会議の開催を2ヶ月に1回定例開催することや、本人が参加し自分の思いを発表できる機会が与えられることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターの職員とは活発に意見交換を行っている。各種申請や、困難事例の受け入れだけでなく、各種イベントの際にも訪問し、助言してくれる。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの便りを3ヶ月に1度発行している。多くの家族が頻繁にホームを訪問しており、時には入居者と一緒に泊まってくれることもある。健康状態や暮らしぶりは家族の訪問時に報告している。		家族の訪問時に健康状態などの手渡す記録があることが望ましい。また、月に1回程度の定期的な報告が行われることを期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、直接管理者やケアリーダーが聞くことが多いが、地域住民からの意見を聞くためにも玄関に意見箱を設置している。現在家族会は開催していない。		訪問する家族も多いので、イベント時に家族会を開催し、家族同士の交流が深まることを期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複合型施設間での異動はあるが、どの職員も入居者と関わりがあるため、入居者のダメージは少ない。退職時には混乱が起きないように事前に本人や家族に伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	複合型施設内で毎月テーマを決め、研修を行っている。運営者は市やグループホーム連絡会が主催する研修には職員に参加を呼び掛けている。職員の研修への参加は内容により業務扱いとしている。		研修を希望しながら、業務の関係から希望を出せない職員も多いため、参加費など経済面での補助や人員体制の見直しなどにより、できるだけ希望する研修が受けられる体制づくりが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通しての相互実習を行っている。他施設からの見学や他施設の見学も行っている。相互実習の期間は2日間程度である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスや小規模多機能型居宅介護を利用し、慣れてから入居してもらう。いきなり入居する場合にも、入居前に何度か訪問してから利用してもらう。入居後も家族からの協力が得られるように働きかけ、ホームについての理解を深めてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から料理や洗濯など日常的なことから、多くの知恵を教えてもらったり、職員自身が気付くことも多く、趣味など共通した内容の会話も交わされているが、介護される一方の立場ではない支えあう関係の構築までには至っていない。		グループホーム内の職員の制服着用や各居室の様付けのネームプレートなどは、介護する側される側の意識につながりやすい部分もあるので見直しの検討を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、本人の希望を希望を汲み取れるよう努力している。攻撃的な言葉を発しがちな入居者にも、その言葉の奥にはどんな思いがあるのかを常に考えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のユニット間での会議で、個々の入居者のケアについて話し合いを行っている。必要な情報は本人や家族などから得るようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3ヶ月に1回、モニタリングと評価を行い行っている。計画の変更には家族からの意見や要望も取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設内の行き来は自由に行えるようにしている。地域住民とは、ホームの農園での芋掘りに近くの小学生を招待している。生ゴミの堆肥化にボランティアの指導を受けている。総合学習の時間に車いす体験を近くの小学校で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族に依頼しているが、緊急時はホームで送迎をしている。かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては終末期になっても対応する方針である。訪問看護とも提携し、できるだけ本人の希望に添えるように支援している。本人には入居時や機会を見て、将来的にどこで住みたいかを確認するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の声かけもさりげなく配慮して行っている。職員間のコミュニケーションも、アイコンタクトで不要な言葉を使うことなくケアを行っている。個人の記録は事務所で管理し、プライバシーが漏れないよう気を付けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	和裁をしていた方に雑巾を縫ってもらい小学校に寄付するなど、入居者の今まで身につけていた技術や経験が生かせる機会を設けている。入居者一人ひとりの生活リズムに合わせられるようにケアを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは担当の職員が1週間毎に作成するが、随時入居者の希望も取り入れて作っている。食材はユニット毎に毎日入居者と共に購入している。食事は職員と入居者が一緒になって調理し、一緒に食べ、後片づけも一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望を聞き、自由に行っている。職員の帰宅時間での入浴は難しい場合もあるができるだけ対応できるようにしている。入浴を希望しない場合でも声かけをし、週に3日は入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの農園での野菜の栽培や、洗濯物をたたんだり、調理や後片づけなど、その人の生活歴を考慮し、役割が持てるよう支援している。ホームに飾る花もみんなで協力し、生けている。歌の好きな人も多く、時折「串本節」の合唱も聞こえる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩など外出できるよう支援している。自分から外出をしない入居者には買い物やドライブなど一緒に外出できる機会を設けている。一人で散歩をする入居者には、事故のないよう職員が見守っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関には日中鍵はかけていない。センサーもなく、自由に外出しているが、事故のないよう職員が見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合型施設全体での避難訓練を実施している。入居者も参加し、日中を想定して年に2回行っているが、地域住民の参加はない。		地域住民との話し合いや訓練を行い、職員の数が多いい日中はホームが地域に協力できることや、逆に夜間は地域の助けを必要とすることなどを話し合い、互いの協力体制を構築することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回記録しているが、入居者にわからないようにさりげなく行い、得られた情報は全職員が共有している。水分量は、摂取量が少ないなど管理の必要な入居者は記録し、摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者とともに生けた季節の花が随所に飾られ季節感が感じられる。共有部分は木目を使い暖かみが出るようなインテリアになっており、天窓からは自然な採光を行っている。複合施設の内部構造全体が一体の施設のような印象を受け、グループホームも2ユニットそれぞれの特長が見られない。		入居者の住まいとしての自分のホーム、自分のユニットといった意識が向上するとともに、見当識の低下による場所間違いにも配慮できるように、グループホームと他のサービススペースの違いやグループホームの各ユニットの違いが感じられるように装飾を変えるなどの工夫に期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクローゼットが備えられているが、テレビや冷蔵庫など一人ひとりが思い思いの使い慣れた物を持ち込んでいる。電話を引いている入居者もいる。		